先人たちが作り上げた「農」の資産を知っていますか

日本では、3000年以上前から稲作がひとびとの暮らしを支えてきました。先人は、水を得るため遠く離れた川に堰を作り、村まで水路を引いてきました。

歴史のある水路や堰は、農業や生活のための用水として使われながら、農村の美しい景色を作り、文化財として、地域のひとびとに大切に管理されています。

石川県 白山市など

煉瓦づくりの水門
明治の近代歴史遺産

手取川七ヶ用水

石川県白山を源流とする手取川は、昔から大洪水を起こしてきた暴れ川でしたが、七つの用水の水源でもありました。明治36年にオランダ人技師ヨハネス・デレーケの指導により、洪水と渇水対策のため、七つの用水の取水口をひとつにする工事が行われました。このとき作られた大水門、給水口は、煉瓦造りの明治の香りがする美しい建物で、いまでも大切に使われています。

青森県 十和田市

都市と農村を支える
江戸時代から昭和まで作りつづける

稲生川用水

新渡戸稲造の祖父の新渡戸傳は、荒れ地だった三本木原台地に、奥入瀬川から水を導く稲生川用水を作りました。その後も水路を延ばす工事は、戦前、戦後と続けられ、現在では水路の総延長は71kmにも及んでいます。稲生川用水によって、三本木台地の農地と十和田市が開発され、いまでは美しい田園と都市となっています。

三重県 白山町

山の村の宝物
地域の文化財

南家城川口井水

南家城川口井水は、清流雲出川の中流の農村地帯にあります。平安時代に作られ、地域のひとびとによって管理され、いまでも使われ続けています。美しい水が流れる井水は、神社の参拝用の手打ち水や、野菜や農機具を洗う生活用水として使われています。井水は地域の文化財、宝物となっています。

山口県 山陽小野田市

伝説が生きる疎水
地域の歴史に深く結びつく堰

寝太郎堰（寝太郎用水）

旧山陽町（現山陽小野田市）を流れる厚狭川水から千町ヶ原に水を導く寝太郎堰は、約300年前に作られたといわれ、地域に伝説が伝えられています。3年ほど寝てばかりだった寝太郎は、千石船にいっぱいの草鞋を佐渡の金山で古草鞋と交換し、古草鞋についていた砂金を資金として、厚狭川を堰き止め荒地であった千町ヶ原に水を引き水田を開いたといいます。毎年寝太郎のお祭りが行われ、ひとびとに親しまれています。

香川県

香川県の産業を支える
県民の「命の水」

香川用水

高知県の山間部にある早明浦ダムを水源とする香川用水は、香川県の農業用水、都市用水に供給する水の大動脈です。香川県は雨が少なく、ため池に頼り、水不足に悩まされ続け、警官が出動するような水争いも起こっていました。昭和43年から12年間かけて香川用水が作られ、上水道、工業用水、農業用水が供給されるようになり、水不足がなくなりました。香川用水は、県民の「命の水」として定着しています。

栃木県 那須塩原市 大田原市

豊かな農村を生み出す
明治時代の開拓

那須野ヶ原用水

那須野ヶ原は、水に乏しい不毛の地でした。飲料水と農業用水を得るため、明治19年に那須野ヶ原用水が作られ、那須野ヶ原の開拓は飛躍的に進みました。現在、那須野ヶ原は、17万人のひとびとが生活する栃木県北部の農業、工業の中心的な地域です。貴重な水を守る精神が受け継がれ、地域のひとびとによって美しい水が守られ、水路や田んぼにはきれいな水に住むドジョウが多く住んでいます。

群馬県 高崎市

水を分ける円筒分水
戦国時代から伝わる用水

長野堰用水

高崎市に水を導く長野堰用水は、戦国時代、地域の豪族だった長野業政によって作られ水道用水、農業用水、防火用水として使われてきました。水争いで有名な水が不足した地域だったため、明治時代に榛名湖からトンネルで水をひき、その水を公平に分けるために円筒分水堰が作られました。今では、公園として市民の憩いの場所となっています。

長野県 佐久市

生涯と私財を賭けた用水
江戸時代の先人から伝わる遺産

五郎兵衛用水

五郎兵衛用水は、江戸時代のはじめ頃、市川五郎兵衛真親が長野県佐久市浅科の不毛の原野に水田を開くために、私財と生涯を賭けて作った用水です。蓼科山の山中の湧き水を水源として、断崖に水路を切り込み、山にトンネルを掘り抜き、川を掛樋で渡し、当時の高度な土木技術によって造られています。今では佐久市だけでなく、東御市、小諸市までを潤す大切な用水となっています。

福岡県 柳川市

水郷の町をめぐる堀割
町と水の長い歴史

柳川の堀割

有明海に面した柳川市には、市内を縦横にめぐる掘割があります。戦国時代から江戸時代にかけて、堀割、水路が造られ、今でも農業用水、生活用水として大切な役割を果たしています。戦後、掘割の荒廃が進んだ時期もありましたが、柳川市と住民が協力して河川浄化運動を進め、今では、柳川は水郷の町として、年間100万人の観光客が訪れています。

熊本県

江戸時代の大トンネル
新田に水を導く

幸野溝

江戸時代の始め、相良藩は、財政をたてなおすために、新田開発を進めました。相良藩士高橋政重は、村人たちとの血のにじむような努力のすえ、元禄9年(1696)から10年間かけて幸野溝を作り水田を開きました。幸野溝には、古城台地を貫く2,524mのトンネルがあり、江戸時代を通じて日本最長のトンネルといわれています。現在でも、湯前町、多良木町、あさぎり町の3町の農業用水、防火用水などに使われています。

疎水百選 『疎水百選』が選ばれました

日本では、古代から近代にいたるまで水田を中心とした国づくりが行われてきました。わが国の農業用水路は日本中に張り巡らされています。『疏水』とは、この水路や水路網のことです。

全国から応募された価値ある疏水から、インターネットによる投票結果と選考委員による総合評価によって、疎水百選が選ばれました。

詳しくは、疎水百選ホームページをご覧ください。

http://www.inakajin.or.jp/sosui/